



寛永9年(1632)に小笠原氏が小倉に移封してから、細川忠利の招きで肥後熊本に行くまでの8年間、宮本武蔵は伊織と行動を共にしました。この間、武蔵は小倉から伊織の采地(領地)である田川郡の福智町方面に時々訪れていたものと思われま

遙かに香春岳を望む

いかに大切かを伝えたものと思われま

武蔵や子らに影響を与えた 理応院の存在

常立寺を建立した武蔵の兄の長男・大山吉久は、寺の過去帳に本人と妻の名が記載されていることから、金田村か神崎村に居住していたものと思われま



伝承が確証へと結びつきました

小倉に住んでいました。かつて出家した常光院がここで夫・信利の菩提をとむらったように、当時は、宮本武蔵や大山吉久はじめ、宮本伊織や理応院が常立寺を参拝し、墓前に手を合わせていたと考えられます。本堂の真南にある小原信利の墓には、今も宮本家や小原家一族の方々が、欠かさず墓参りをしていくそうです。こうしている今、境内を訪ね、石塔群を拝し、樹木や山門を仰ぎ、遙かに香春岳を望むとき、宮本武蔵や大山吉久、宮本伊織の姿が彷彿として浮かんでくるのです。(福田昌氏談)

【小原信利公墓碑】香春岳城の戦いで戦死した小原信利とその妻・常光院の墓碑です。碑文の「常光院妙立目了」は寺名にも由来しています。(町指定文化財/常立寺所有/平成11年10月5日指定)



【常立寺旧本堂棟札】

左ページの写真が表面で右ページが裏面です。棟札とは建物の棟木などに打ち付けられた木の札で、建物の建設に関する事柄が記されています。かつて解体された常立寺本堂の屋根裏にあったというこの棟札は、長い間放置され、ほこりにまみれたままの状態で見発見されました。表書きでは寛保3年(1743)に宮本伊織の家系を継ぐ宮本主馬によって本堂が再築されたことが確認でき、世話人や大工などの名前も細かに記されています。裏には大山右金吾吉久が創建したことなどの由緒が記されています。(福智町指定有形民俗文化財/常立寺所有/平成11年10月5日指定)



どこか運命的なものを感じます



↑正面が常立寺の本堂。その横、向かって左側に小原信利の墓碑がある。香春岳や福智連峰が見渡せる福智町神崎の高台で、妻・常光院とともに静かに眠っている。

ました。やがて高橋元種は降伏し、戦闘は12月12日で終わりをみま



←石灰石採掘前のかつての香春岳

香春岳城の戦いと小原信利



九州統一を目前にした薩摩の島津氏に対し、豊後の大友宗麟が豊臣秀吉に助けを求めた形が始まった九州出兵。中でも香春岳城の攻防戦は屈指の大激戦となりま